



新年のご挨拶と富山大会のご案内



日本デジタル教科書学会 会長
第7回年次大会実行委員会 委員長
長谷川 春生

新年明けましておめでとうございます。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。
新学習指導要領の実施に向けて、主体的・対話的で深い学びのためのICT活用、プログラミング教育を含む情報活用能力育成等に関わる実践や研究が、今まで以上に求められています。本学会は、デジタル教科書・教材等の活用に関わる実践や研究を通して、教育に貢献することを主な目的として2012年に設立されました。現在、会員の実践や研究の分野は非常に広いものとなっていますが、新学習指導要領の実施に向けても大きく貢献できる学会であると考えます。

本学会の強みは、小・中・高等学校、特別支援学校等の教育現場の教員が多く参加していることです。年次大会等で発表されている教育現場視点からの実践的な研究の意義は大きいと考えます。会員の皆様には、教育現場の教員同士の実践や研究成果についての情報共有の場として、さらに、教育現場の教員と大学等の研究者との情報共有の場として、本学会を活用していただきたいと考えております。そして、教育への貢献ができることを願っています。

本年も、研究プロジェクト・研究グループへの研究費補助、そして、会員の主体的な研究会開催を支援する研究会開催助成の制度をご活用いただきたいと考えております。昨年度までも、研究プロジェクト・研究グループの研究成果の発表が、年次大会等で行われ、その研究成果は高く評価されています。学会員同士の共同研究の機会として積極的な活用を期待しています。また、研究会開催助成による研究会も毎年2回程度行われています。本年2月にもプログラミング教育に関わる研究会開催の計画が進められています。こちらの制度もぜひ活用していただきたいと思います。さらに、本学会の論文誌「デジタル教科書研究」への投稿も期待します。年次大会発表予稿集とともに、「デジタル教科書研究」もJ-STAGEに登録されます。研究成果の発信としてぜひご活用ください。

本学会における、一番大きな会員交流の場は、年次大会です。昨年までに、東京、大阪、新潟、北海道、京都、そして東京と6回の年次大会を開催してきました。第7回の年次大会は富山です。本大会においても一般研究発表（口頭発表、ポスター発表）に加えて、課題研究発表、ワークショップ、セミナー等を行い、参加者のニーズにお応えできるようにしたいと考えています。現在、大会実行委員会で、大会テーマや基調講演等について検討を進めています。詳細が決定しましたらお知らせいたします。

富山への移動は北陸新幹線も便利です。自然豊かで「きときと」な富山にぜひお越しください。お待ちしております。

【日本デジタル教科書学会第7回年次大会（富山大会）（予定）】

期日 2018年8月18日（土）19日（日）

会場 富山大学人間発達科学部（富山市五福3190）

■研究会「小学校におけるプログラミング教育はどうあればよいか」ご報告

本学会から後援をいただき、平成 29 年 12 月 2 日（土）に開催した富山大学人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター学習環境研究部門研究会「小学校におけるプログラミング教育はどうあればよいか」どのように位置付けてどのような力を育成するか」には、小学校等の先生方、教育関係機関の先生方、教員を目指す学生など県内外から約 50 名のご参加をいただきました。

第 1 部は、茨城大学教育学部准教授の小林祐紀先生による講演でした。テーマは「論理的思考力を育てるプログラミング教育とは」でした。プログラミング教育について考える場合、プログラミング自体を学ぶこと、プログラミングを通して学ぶこと、また、コンピュータを使う場合と使わない場合など、様々に考えられることを、具体例を基に詳しく説明していただき、その上で、小学校におけるプログラミング教育はどうあるべきかについて解説をしていただきました。そして、小学校におけるプログラミング教育は、プログラミング的思考を育むための種まきの段階であるとされた上で、プログラミング的思考の考え方についての説明を丁寧にしていただきました。さらに先進的な取組をしている小学校での授業実践例の紹介もあり、具体的な授業のイメージを持つことができました。また、一般の小学校では、まずどのようなところから取組を進めていくべきかについての考え方も示してくださいました。お話をお聞きして、新学習指導要領に例示されている内容だけでなく、様々な教科領域等での授業を進めていくことが望ましいと思いました。最後には、まず、教師が楽しむことが大切である、という参加している小学校の先生方へのメッセージがあり、そのとおりであると感じました。

第 2 部は、情報通信総合研究所特別研究員の平井聡一郎先生によるワークショップでした。テーマは「これならできる小学校におけるプログラミング教育」でした。まず、小学校におけるプログラミング教育のねらいは、「教科のねらいを達成するためのプログラミング体験」であり、「プログラミングを学ぶ」のではなく「プログラミングで学ぶ」こと、そして、それは小学校 6 年間で積み重ねていくべきであることを説明されました。最初の活動は、教室掃除マニュアル作りでした。アンブラグドの考え方によるプログラミング教育を体験する活動でした。グループごとに話し合ってマニュアルを作るだけでなく、作ったマニュアルをグループ間で交換してチェックし合う活動もありました。実際に体験することを通して、このような活動のよさを実感することができました。次は、プログラミングによる絵本作りの体験でした。絵本作りを体験するだけでなく、このような活動を国語と図工の合科の授業として実践した例も教えていただきました。カリキュラム・マネジメントのよい例でもあると感じました。最後は、小型ロボットをプログラミングにより動かす活動でした。参加者の皆様は夢中で取り組み、ワークショップの時間を延長することになりましたが、プログラミングの楽しさを実感することができたと思います。

第 1 部の講演と第 2 部のワークショップを通して、小学校におけるプログラミング教育についての具体的なイメージを持つことができ、大変有意義な会となりました。講師の先生方、参加者の皆様に感謝いたします。

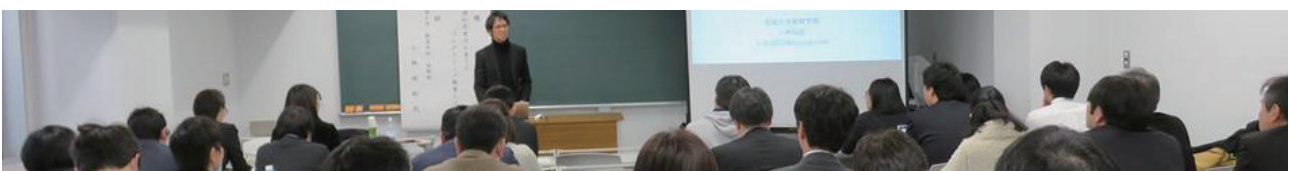
文責：長谷川春生（富山大学）



茨城大学教育学部准教授
小林祐紀先生



情報通信総合研究所特別研究員
平井聡一郎先生



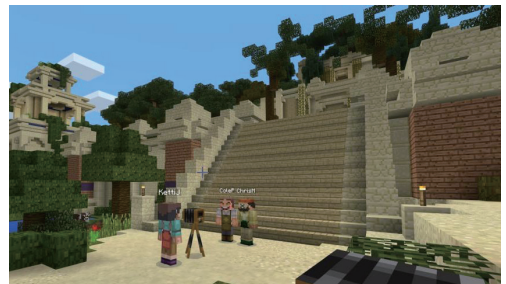


■日本デジタル教科書学会研究会開催のご案内

「Minecraft で創造性や問題解決能力を育む ～学校教育との接点を考える～」

研究委員会では、年2回程度の研究会を企画しています。

2018年1回目は、「Minecraft で創造性や問題解決能力を育む ～学校教育との接点を考える～」をテーマに研究会を行います。テーマのMinecraftはブロックを地面や空中に配置し、自由な形の建造物等を作っていくゲームです。国内でも人気のあるこのゲームは、小学生など年少児童の利用も多いことで有名です。草原、森、砂漠、雪原などのさまざまなバイオームや地形が存在し、地下には洞窟や廃坑、溪谷などが広がっているなど、仮想空間の中で自由にユーザは生活できるのが特徴です。海外ではこれまでもその教育利用が考えられており、2016年には、教育利用に特化したMinecraft: Education Edition もリリースされました。このように教育現場での活用が進むMinecraftについて、多くの実践者や研究者でその有効な活用について議論します。



日 時：平成30年2月3日(土) 13時開始 17時30分終了

場 所：小金井市立前原小学校

対 象：日本デジタル教科書学会会員、教育関係者

参加費：学会員 / 無料 学会員以外の教育関係者 / 500円

定 員：30名程度

講 師：松田孝氏(小金井市立前原小学校校長) 他

主 催：日本デジタル教科書学会

申 込：学会ウェブページのフォームから申込

■研究会「第39回北陸三県教育工学研究大会 富山大会」開催ご案内

本学会後援の研究会が下記の通り開催されます。

第39回北陸三県教育工学研究大会 富山大会 アクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくり

日 時：2018年02月17日(土) 9:30～16:30

会 場：富山大学人間発達科学部第3棟

参加費：無料。ただし資料代として、一般1,000円、各県会員500円、学生無料。

主 催：富山県教育工学研究会

富山大学人間発達科学部 附属人間発達科学研究実践総合センター

富山大学大学院 教職実践開発研究科

共 催：石川県教育工学研究会、福井県教育工学研究会

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属教育実践支援センター

福井大学教育地域科学部附属教育実践総合センター

後 援：富山県教育委員会、日本教育工学協会(JAET)、日本デジタル教科書学会

詳細・お申し込みは下記のリンクよりお願い致します。

<https://toyamaedu.jimdo.com/> 第39回北陸三県教育工学研究大会 /



■ 研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成について

本学会では、会員の研究活動を支援するために、研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成を行っております。

会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。研究プロジェクトへの助成額は最大10万円、研究グループへの助成額は最大5万円です。研究プロジェクトでは本学会論文誌への投稿と本学会年次大会における発表、研究グループでは本学会年次大会における発表を求めるなど、応募の条件があります。詳細は学会ウェブサイト (http://js-dt.jp/research_support/) をご覧ください。申請は随時受け付けております。ただし、本学会の研究助成に関する年度予算額の上限に達した時点で受付を終了いたしますのでご了承ください。皆様の積極的な取り組みを期待いたします。

■ 研究会開催助成について

本学会では、会員の皆様の主体的な研究会の開催、研究活動の活性化、研究の発展、会員相互の連携を促進すること等を目的に研究会開催助成を行っております。申請に関する詳細は本学会ウェブサイト (http://js-dt.jp/seminar_support/) をご確認ください。会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。

■ 学会誌「デジタル教科書研究」への投稿のご案内

学会誌「デジタル教科書研究」は、研究者と実践者の自由な発想に基づき、デジタル教科書・教材等の発展の場として機能することを目的として刊行し、投稿論文の通年募集を行っております。

詳しくは、学会 HP (<http://js-dt.jp/学会図書館/学会誌「日本デジタル教科書研究」/>) をご確認ください。デジタル教科書研究およびその周辺領域研究に関わるみなさまの積極的な投稿をお待ちしています。